

地域でこんなことありませんか？

北野校区で、自治会、PTA、民生委員などが参加して、福岡県が作成したアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見や思い込み）の動画を視聴し学習会を行いました。

▶PTAの役員会でのシーンでは…

男性の会長から「次の会長は〇〇さんで」と言われて断る女性や、「PTAの仕事は母親の仕事でしょ」と発言する女性の姿がありました。

▶自治会で敬老会の話し合いをするシーンでは…

男性と同じ役員メンバーですが、お茶出しをして、敬老会の役割をもらえず、勇気を出して発言した意見も聞き入れられなかった女性の姿がありました。

（出典：福岡県女性の活躍推進ポータルサイト「女性がリードするフクオカのミライ D&I and you」）

動画を視聴して、登場人物の言動の中に「これはおかしい」と感じたことについて、意見を出し合ってもらいました。他者の意見を聞いたり、対話したりすることで、自分では自覚していなかったものの見方や考え方に気づいたり、視野が広がったりすることもあります。

皆さんからは、女性自身が「PTA会長は女性には難しい」、「子どものことは母親の仕事」と決めつけていることがおかしいという意見が多く、地域では女性が後片付けなど補助的な役割があるという意見がありました。アンコンシャス・バイアス、特に「男らしさ、女らしさ」に関する思い込み（ジェンダー・バイアス）は、固定的な性別役割分担を生み出し、それが社会へと、そして、私たちの生きづらさにつながります。このように、私たちが、気づいていないうちに物事を判断しているこの「無意識の思い込み」が与える影響について、これを機会に一度皆さんで考えてみませんか。

男女共同参画の視点をもって、考えました

今回、北野校区では文化生涯学習部会が主催して、男女共同参画の視点をもって自治会活動を進めていくため、アンコンシャス・バイアスの存在について気づくことをねらいとした学習会が開催されました。最後に、松本秀樹部会長から「本日の気づきを大切にして、それぞれの自治会で共有してください」と振り返りの言葉が参加者の皆様に向けてありました。

北野校区まちづくり振興会の高尾忠男会長は、「性別に関係なく誰もが幸せな人生を送らないといけない。そのためにもこの活動は継続しなければならない。一緒にやってみましょう」と力強い言葉で話されました。

知人の勧めで参加され積極的に発表された原口智嗣さんと曾我部憲さんは、「自分たちのような若い世代が次世代のために考えていかないといけないと思った」と意見を述べられました。



北野校区まちづくり
振興会の高尾忠男会長



原口 智嗣さん



曾我部 憲さん



文化生涯学習部会の
松本秀樹部会長

子育てに『思い込み』、ありませんか？

生まれてすぐ押し付けられる「女の子らしさ」、「男の子らしさ」への問題点

▶私たちが、良かれと思って相手に伝えた言葉や行動が、場合によっては、「決めつけ」や「押しつけ」になり、意図せずに相手を傷つけてしまうことがあります。子育ての中で、「男の子だから泣かないで」とか「女の子だからピンク色がいいよね」というような言葉を使っていませんか。深い意味はなく発せられた言葉でも、小さな頃から周りの大人からこのような言葉を言われてきた子どもは、「男の子はこうあるべきだ」「女の子だからこうしてはいけない」を当たり前と思うことになります。

▶例えば、生まれてすぐに、周囲の大人は「女の子だからぬいぐるみがいいよね」「男の子だから乗り物のおもちゃがいいよね」のように、赤ちゃんの性別を一番の基準にして考えていることはありませんか。その後、幼稚園や保育園では、男の子、次に女の子と性別順に物事が行われることがあります。このような何気ない習慣から性別によって分かれることが、あたかも当たり前であるかのように子どもに刷り込まれてしまいます。将来、その子どもが親になり、その価値観がまた引き継がれるという「思い込み」の連鎖を断ち切るためにも、まずは、大人が自分の言動に意識を向けたいものです。

教育社会学と子どもの社会学が専門の福岡大学人文学部の藤田由美子教授は、講座の中で「子育ての中で周りの大人が心がけたいことは、ジェンダー・ステレオタイプ（性別に対する先入観や固定観念のこと）の見直しと多様なセクシュアリティの理解と尊重」と話され、その具体例を次のように挙げられました。

- 無意識のうちにジェンダー・ステレオタイプが含まれていないか、問い直す。
- 子どもや周りの大人のふるまいに、ステレオタイプにもとづく評価を行っていないか、問い直す。
- ステレオタイプの伝え方NG⇒伝え方のアップデートをしましょう。ありのままの姿を尊重する。

▶無意識の思い込みに意識を向けてみることは、周りの人や自分の選択肢を狭めることなく、一人ひとりが生き生きと活躍できる社会をつくる一歩につながります。決めつけないコミュニケーション、伝え方を意識しましょう。



「子育てのなかのジェンダー」
で講演する藤田由美子教授

